5棟目の高齢者住宅開設

「食」「仕事」の提供、工夫

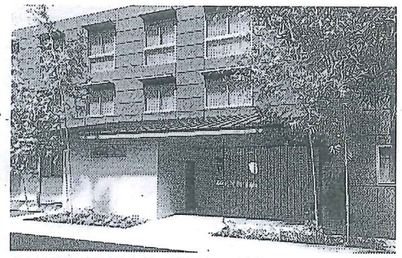
「銀木犀」ブランドで高齢者住宅の運営を行っているシルバーウッド（千葉県浦安市）は9月16日に、5棟目の高齢者住宅としてサービス付き高齢者向け住宅（以下：サ付き住宅）「銀木犀　薬園台（52室）」を開設した。

シルバーウッド
下河原忠道社長

医療面の支援と心のケアを重視

2006年から高齢者住宅向けの躯体販売を行っているシルバーウッド（40室）は、2011年から「銀木犀」ブランドで高齢者住宅の運営を開始。これまでに「銀木犀　鎌ヶ谷（53室）」「銀木犀　市川ムともほぼ満室の状態が続いている。

住宅と、「銀木犀　川崎（18名）」「銀木犀　錦糸町（18名）」の2棟のグループホームを運営。4ホー



▲サ付き住宅「銀木犀　薬園台」の建物

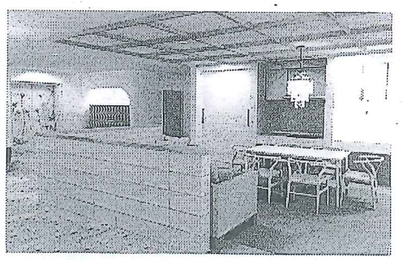
今回のサ付き住宅「銀木犀　薬園台」は、これまでの運営で培ってきた「気づき」を反映し、躯体販売メーカーという強みを活かしたハード面の充実とともに、ソフト面の工夫も目立つ。

例えば、入居者や職員が自由に使える大型キッチンの設置。これは、運営者側の都合によって入居者の自由を奪うことだけは避けたいという下河原忠道社長の強い思いで設置したもので、下河原社長は「朝、昼、晩と決まってくる3食の食事は提供されるが、これまでの便利ですが、これまでの運営で『選択』『行動』の自由を失うことでもあると感じ、献立を考える、買い物に行く、食事を作るという『食』を楽しむ自由、さらには同じ食卓を囲み団欒できる喜びを感じてもらいたいと思っています」と話す。

また、入居者に活躍（仕事）の場を提供したいとの思いから、初めてホーム内に陶芸スペースを設けている。

「入居時は歩けなかった認知症のおばあちゃんが元気になって、自治体から『公園の清掃を受託した』と嬉しそうに話す、その誇らしげな姿を見た時に、『働く』ということの大切さを感じました。そこで、当社がブランディングした陶器の製作を入居者に依頼し、制作代を支払います。入居者が制作した陶器は、当社のショップで販売していきます。入居者の手先の訓練にもなりますし、仕事を提供することで気力も充実してもらえればと思っています」（下河原社長）

ケア面においては、これまでのホーム同様に、こころのケアと医療的ケアを重視したケア体制を整え、看取りまで対応。たとえ疾病を抱えていても、病院ではなく住み慣れた地域の「第2の我が家」として安心して暮らせる住まいの提供を行っている。医療的サポートは近隣の訪問看護ステーションの力を借り、訪問チームの要は在宅療養支援診療所のドクターが担当している。



▲入居者や職員が自由に使える大型キッチン

建物の内外観は、同社独自の特許技術「スチールパネル工法」にて建築することで、建築費全体の約15%を占めるといわれている構造躯体費のコストダウンを図り、その削減した費用で建物自体の質感を高め、自宅で暮らしている空気感の演出に細心の注意を払っている。天然木を使用した天井や床、家具など建物自体の付加価値を高めつつ、坪単価65万円（外構工事除く）で建築。近隣相場よりも低価格の費用で入居できる設定にしても収益性を保つことができている。

先月16日に行った開所式には、介護・医療関係者や地域住民など120名以上が参加。事前に見学会などを行い、開所式前に20室の入居が決まっていた。同社は来年3月に、サ付き住宅「銀木犀　西新井大師」の開設を予定しており、今後も年間5・6棟のペースで高齢者住宅を開設していく。

▲開所式には120名以上が参加